



2024年9月16日  
第18回民医連小児科研究集会 in 長野

病児保育における

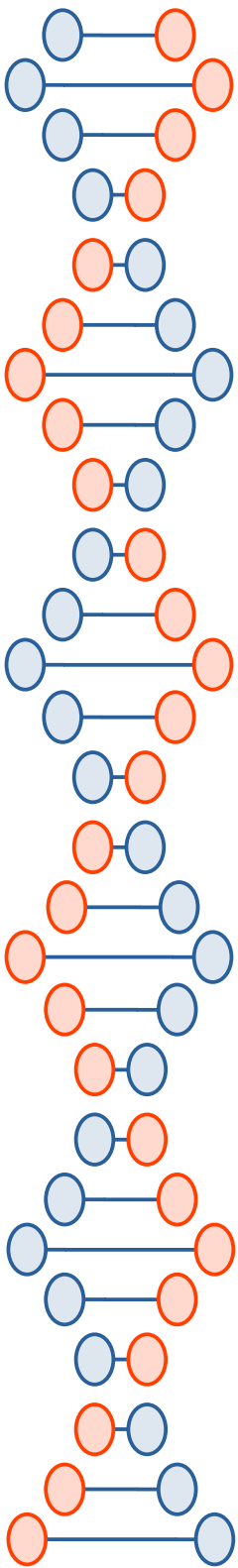
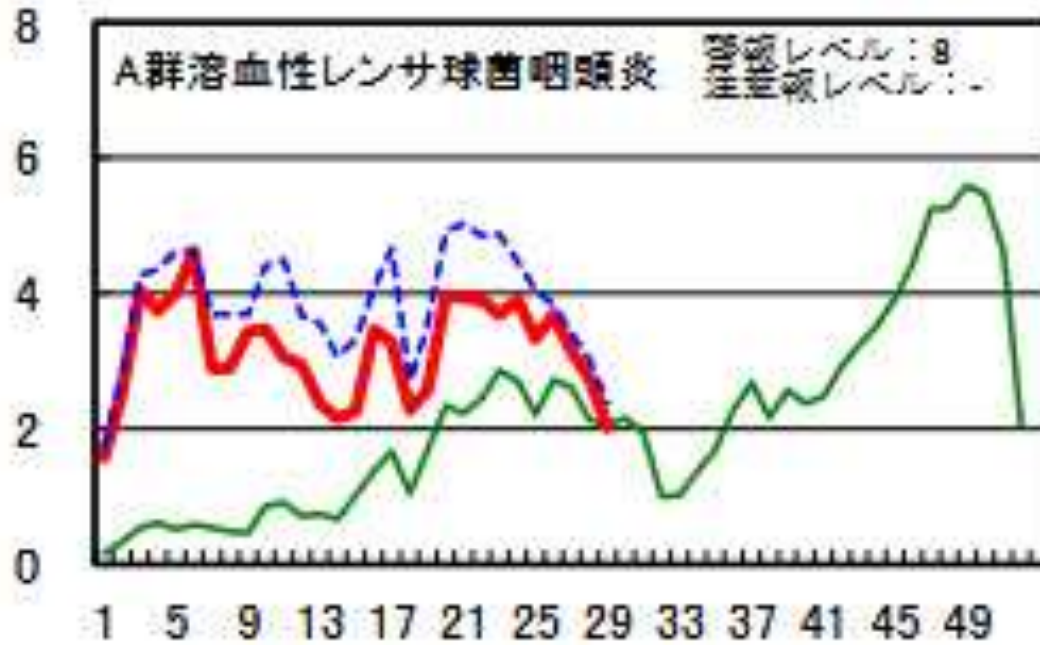
溶連菌感染症 トリアージについて

大阪きづがわ医療福祉生協

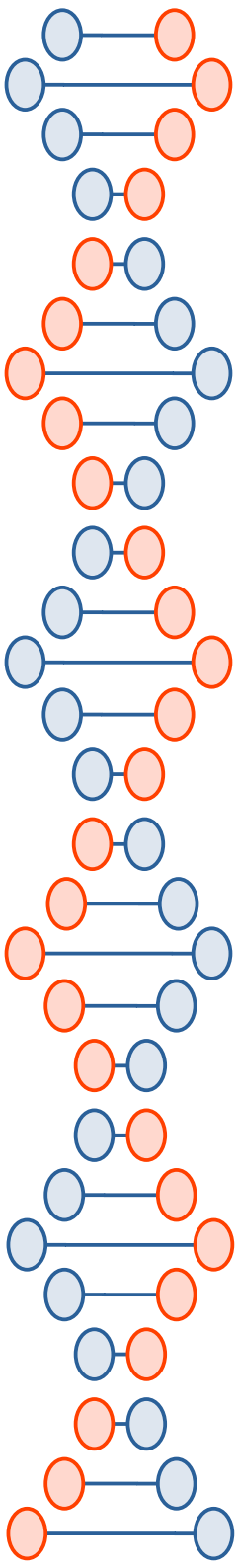
西成民主診療所

大里光伸

# はじめに



# 対象：2024年1月～7月までの病児保育入室児



性別	生年月日	年齢	最終来院日	再発・遷延化	家族内感染	症状	
男	20151102	8	20240722				
女	20170821	6	20240727				
男	20190126	5	20240729	+			
男	20181127	5	20240702		+		
女	20181127	5	20240704		+		
女	20190507	5	20240726				
女	20190928	4	20240720				
男	20190415	5	20240418				
女	20191013	4	20240615				
女	20191127	4	20240617		+		
女	20191127	4	20240610		+		
男	20190224	5	20240729				
男	20201201	3	20240626				
女	20210416	3	20240607			発疹	
女	20200527	4	20240629			莓舌	
女	20211026	2	20240427				
女	20210427	3	20240729				
女	20170517	7	20240629				
男	20211126	2	20240619				
男	20220808	1	20240410	+			
男	20211228	2	20240417				
女	20220121	2	20240605				
女	20200821	3	20240624				
男	20200602	4	20240727	+		莓舌	

# PCR法と従来法との比較

## 検出感度

各濃度の菌液を作成し各方法を用いて検出を行いました。

GAS ATCC12384 (cfu/mL)	本品	培養法	抗原検出法
$1.25 \times 10^5$	NT	NT	+
$6.25 \times 10^4$	NT	NT	-
$1.00 \times 10^4$	+	+	NT
$5.00 \times 10^3$	+	+	NT
$1.00 \times 10^3$	+	+	NT
$5.00 \times 10^2$	-	-	NT
$1.00 \times 10^2$	-	-	NT

NT: Not Tested (申請時データ)

## 臨床性能評価試験

A群ベータ溶血連鎖球菌 (GAS) の感染が疑われる患者の咽頭ぬぐい液を用い、培養法または抗原検出法を対照として、一致率を検討しました。

		培養法		抗原検出法	
		+	-	+	-
本品	+	74	13 <sup>※2</sup>	85	2 <sup>※4</sup>
	-	1 <sup>※1</sup>	99	2 <sup>※3</sup>	98
陽性一致率		98.7% (92.8-100)		97.7% (91.9-99.7)	
陰性一致率		88.4% (81.0-93.7)		98.0% (93.0-99.8)	
全体一致率		92.5% (87.8-95.8)		97.9% (94.6-99.4)	

※1 PCR法で陽性

※2 PCR法10例は陽性、3例は陰性

※3 培養法、PCR法ともに陽性が1例、陰性が1例

※4 培養法陽性でPCR法陽性が1例、培養法PCR法ともに陰性が1例

(製品電子添文より改変)

## 症例

○再発・再燃を繰り返す例

○急性糸球体腎炎発症例



## メーリングリストへのお誘い

- 2024年

1. [投稿順](#)

2. [スレッド順](#)

◎ [投稿の全文検索](#)

○ [簡易検索](#)

溶連菌

全投稿検索

○ [全投稿検索の詳細画面は、こちらをご覧ください。](#)



# 2024年9月16日 第18回民医連小児科研究集会 in 長野

## メーリングリストで 発信・相談も活発に

ここまで発展できた要因を二つだけ追記します。一つはメーリングリストです。全国の仲間が仲良くなり、交流も活発になってきたなかで、情報交換が課題になりました。当初、少しずつ始まっていましたが、大阪の大里先生の尽力で、素晴らしいメーリングリストができました。これにより、日常診療の疑問、仲間にアピールしたこと、全国規模の調査研究などについて、自由に相談できるようになりました。通信回数は8000回を超えています。

もう一つは、全日本民医連からの自主的研究組織に対する援助です。開催地が決まれば、その県連の負担はけっして小さくありません。入念に準備され、当日は心を込めて迎えてくれます。心から感謝します。また、各院所からは参加費、交通費、宿泊費などを出していただき、その合計額は少なくありません。小児科は守られていると感じるところです。

